

# On your side

## 2

### 令和3年度(2021年度) 子ども主体の授業づくり① (中堅教諭等資質向上研修)

<https://toyono-jinikyoo.com/>

第2回の10年経験者研修も新型コロナウイルス感染症への対応でWeb開催(ライブ配信型)となり、「Zoom」を活用して本来予定していた日時で小学校班・中学校班に分けて実施をしました。

8月実施の初任者との合同実施(コラボ研修)についてや、人材育成の手法であるメンタリングやコーチングの講義をもとに「ブレイクアウトルーム」でのグループ交流をおこないました。

### ～ 振り返りシートより ～

10年目教員という立場になったことで、初任者に対する客観的な視点を持つことができるようになったと思います。ただがむしゃらに仕事をしていた初任の頃とは違い、どのような働きかけをしていくことでこの初任者と成長することができるのかという考えを持つことができました。コラボ研修での初任者とのかかわりを通じて、自分自身の働き方や同僚とのかかわり方を見つめなおしていきたいです。

初任者に向けて何を伝えられるのだろうか、初任者にとって10年経験者はどのように映るのだろうか、自分が初任者だったときはどんなことが心に残っただろうか、といったことを考えることができる研修でした。自分が初任の時に指導助言の先生からの言葉は今でも自分の教育観に根付いています。第一に考えるべきは生徒にとっての利益。何がその授業で与えられるのかということをしつくり考えることが授業者にとって当たり前ではあるけれど、忘れてはいけないことだと思っています。そんなことを次回の研修では初任者に伝えられたらいいなと思います。また、他市の先生との交流ができたのも良かったです。それぞれの先生方のキャリアや、学校の様子が垣間見られたことも勉強になりました。

次回の研修が初任者に助言するというので、改めて、自分に求められる役割や能力が変わってきているのだと感じました。後輩が受け入れやすいアドバイスの方法のヒントとして、メンタリングの話はとても興味深かったです。研修内でもあったように、自分の記憶に残っているアドバイスを思い返してみても、自分の自発的な成長を促してくださるものが多いと気づきました。これまでの先輩がそうであったように、自分も後輩たちの記憶に残り、課題の解決につながる助言ができるように、具体的な助言をすることで、めざす授業や子ども像を少しでも共有し、後輩がロールモデルを獲得する手伝いが出来たらと思います。

今、学年を組んでいる若手の先生に対して自分ができることにもつながってくると感じました。自分の中で今でも残っている先輩の言葉で共通することは、子どもの視点に立てていない自分をふりかえさせてくれる言葉でした。忙しさや余裕のなさから、いつのまにか自分本位の授業やかかわり方になってしまっていることを気づかせてくれたことは、今の自分の財産になっています。「教える」も大切にしつつ、若手の先生が「気づく」につながるようなかかわり方をめざしたいです。そして、一緒に「創る」ことを楽しんで、子どもたちにとっても楽しい取り組みを実践していきたいと思いました。

「何かあったら相談してね!」という声かけは果たして適切でしょうか? 分からないことが分からない、そんな感覚や経験は初任者ならではのことかと思えます。1学期が終わり、職場にも慣れ、初任者はこれから確実に視野も広がっていくことでしょう。それと同時に悩みや不安も多くなることでしょう。そんなときに「メンター」としてというより、「元・初任者」として寄り添える先輩でいてほしいと思います。傾聴や承認、共感といったキーワードは先日実施の初任者研修の講義でも出てきましたが、それは子ども理解や学級づくりの講義でのことでした。みなさんがこれまで十分に培ってきたであろうスキルや経験を若手の育成を含め学校全体に還元していくことを期待しています。



コラボ研修にむけて、「初任者として過ごした1年目に先輩から言われた言葉で今でも覚えている言葉」というトークテーマで交流をおこないました。当時を振り返ることを、先輩として（メンターとして）の役割や立ち振る舞いを考えるきっかけにしていたのが印象的でした。「指導・助言をする」ことを不安やプレッシャーに感じるのではなく、自分が後輩（初任者）の頃を思い返して、寄り添える先輩になれるといいですね。

右も左もわからない不安な初任者の時に話を聞いて共感してもらったり、「私もそんなことあったから大丈夫」と言ってもらい元気が出たり、自分を奮い立たせてなんとかやってこられたりしたことを思い出しました。今の自分が初任者の先生に自信をもっていろんなことを言える立場にあるということと正直決してそうは思いませんが、傾聴と共感を忘れず、少しでも自分が経験してきたことが先生たちの力になれば嬉しいなと思っています。10年目研修のコラボ研修がそのような機会になればいいなと思います。

年々自分よりも後輩の先生が増えてきています。今日コーチングについて教えていただいたように、初任や後輩の先生たちの話をしっかりと聞いて、話しやすい相談しやすい先輩になりたいと思います。先輩の先生に親切にしてもらって経験をすると、後輩が先輩の立場になった時も親切にしようとなり、子どものため、学校のためにもなっていくと思います。初任研でのコラボ研に関しての感想が大変楽しみにしていますと前向きなものばかりで、自分が初任者に的確なアドバイスができるのか、初任者のニーズにこたえられるのか大変不安でプレッシャーですが、自分も学ぶつもりで頑張ります。

同じ10年目の先生から、初任のときに「心に残った言葉」を聞く中で、自身の初任のころを思い出すことができました。10年前、初任者指導担当の先生には非常によくしていただき、教科指導、クラス運営、さまざまな点においてご助言をいただき、それは今の自分の礎となっています。特に印象に残っているのは、授業の空き時間、教科準備室で先生が入れてくれた温かいお茶を飲みながら当時の悩みを聞いてくれたり、ただただ雑談をしたりする時間です。このほっとできる時間が、仕事に追われる自分の心を軽くしてくれていたのだと今は感じます。この先生の指導について、今日の研修を踏まえて考えてみると、メンタリングの三つのスキルである、相手の話をよく聴くスキル、相手を認めるスキル、相手の答えを引き出すスキルを兼ねそろえていたのだと感じます。そして何より、よく「ほめて」くれました。この経験のほかにも自分は多くの先生方（メンター）に支えられてきました。今後は自分が若手教員のメンターになれるよう行動したいと思います。

また、Web開催（Zoomを活用したライブ配信型での実施）についても様々な感想がありました。新型コロナウイルス感染症対応という観点で昨年度から参集による研修実施を見合わせていますが、コラボ研修にむけての交流という研修内容から今回のような開催に至りました。（以下、振り返りシートからの抜粋）

Zoomでは他市の先生と交流でき、各校の学校の様子を聞くことができ、新鮮な気持ちになりました。グループの人数が3人と少なく話しやすい雰囲気でした。

今回のオンライン研修では、発言するタイミングや雰囲気を感じ取る難しさは多少感じましたが、初めて「ブレイクアウトルーム」を体験することができ非常に良かったです。

校内にいながらの研修はなかなか時間にゆとりが取れなく、オンラインでは交流の難しさも感じました。できることなら対面での研修を望みます。

Zoomで講義は受けやすいが、グループミーティングはとてもやりにくかった。初対面で画面越しには話をしにくく、音声がとぎれたり他の班の声が入ってきたりと話し合いが進みませんでした。

研修では講義によるインプットだけでなく、ご自身の実践や経験、学校の実際などのアウトプットも大切にして学びを深めてほしいです。交流をする上で大切にしてほしいのは、それぞれの研修にむかう主体性と、参加者同士の心意気です。対面とオンラインそれぞれのメリットに目を向け、毎回の研修から学び取ることを大切にして、今後ともに学びましょう！

